



平成 23 年 6 月 7 日

各 位

会社名 K F E J A P A N 株式会社
(コード番号3061：名証セントレックス)
本社所在地 横浜市港北区新横浜 3 丁目18番地20
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 原田 隆朗
問合せ先 執行役員 管理統括本部 財務部長 菊池 貴之
電話番号 045-474-1259 (URL <http://www.kfejr.com/>)

特別損失の発生及び平成 23 年 3 月期連結業績予想と実績の差異
並びに剰余金の配当に関するお知らせ

平成 23 年 3 月期第 4 四半期におきまして、特別損失を計上することになりましたのでお知らせするとともに、当社は、平成 22 年 5 月 18 日に公表しました平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）の連結業績予想と本日公表の決算において下記のとおり差異が生じたのでお知らせ致します。

また、あわせて平成 22 年 5 月 18 日に公表しました配当予想を修正することといたしましたのでお知らせ致します。

記

1. 特別損失の発生とその内容

平成 23 年 3 月期第 4 四半期におきまして、当初子会社でありました JET MASTER LIMITED の株式譲渡に伴う関係会社株式売却損 123 百万円及び事業シナジーを前提に投資していた未上会社株式（SPRING株式会社）の投資有価証券評価損として 183 百万円の特別損失として計上しております。その結果、合計 307 百万円の特別損失を計上いたしました。

2. 平成23 年 3 月期通期連結業績予想数値と実績値の差異
(平成22年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	百万円 7,000	百万円 70	百万円 40	百万円 130	円銭 5,186.31
実 績 値 (B)	6,012	△116	△172	△354	△14,689.31
増減額 (B-A)	△988	△186	△212	△484	-
増 減 率 (%)	△14.1	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	6,547	△554	△597	△508	△22,885.57

3. 差異が生じた理由

当社グループは、コア事業である電子部品事業において平成20年9月に買収したプリント基板の自社工場である東莞泰山電子有限公司（以下、「泰山工場」）を平成23年6月に売却し、創業以来当社の品質管理体制として強みのある完全ファブレス化へ原点回帰するという構造改革を実施しました。完全ファブレスによる当社グループの電子部品の卸売販売での売上高はほぼ期初に想定した通り推移したものの、期初に想定した為替レート（US1ドル＝95円）よりも大幅に円高に推移し、期中に想定為替レートを変更しておりますが、通期を通して社内想定為替レートよりも円高に推移したことで、円換算による売上高も期初予想に対しても減少いたしました。電子部品の営業利益におきましては、第1四半期の4月から6月において泰山工場が65百万円の営業赤字を計上したことが響き、通期でも予算未達となりました。環境関連事業においては、LED照明事業を株式会社シャルレ（以下、「シャルレ」）の子会社に売却し、その後、同子会社に出資し、シャルレとの間で合弁会社化しておりますが、LED照明事業の経営主導はシャルレの下で進められており、当社グループとしては引き続き太陽光発電等のこれからの環境社会に最も適した商材の開拓を進めたことから、当初の予想から大きく事業構造が変化し、今期においては事業開拓に伴う費用が先行いたしました。なお、3D関連商品を中心に扱うリアリティプロダクツ事業におきましては、平成23年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震の影響により、店舗展開している想定顧客より再度震災の影響を十分に吟味した上で発注したいとの申し入れがあり、その一方で当社の当該事業の開発としてもその期間を利用して再度顧客ニーズに沿った3Dモニターにすべく仕様を最終変更行ったことにより、販売開始については期ずれてしまったことにより、平成23年3月期が営業赤字となる大きな要因となりました。想定顧客とは今もなお最終的な受注に向けて交渉中であり、受注が正式に決定致しましたら改めて発表させていただきます。

また、上記のとおり、当初子会社でありましたJET MASTER LIMITEDの株式譲渡に伴う関係会社株式売却損123百万円及び事業シナジーを前提に投資していた未上会社株式（SPRING株式会社）の有価証券評価損として183百万円等の特別損失として計上しております。

これらの要因が影響し、営業利益、経常利益及び当期純利益が前回予想を大きく下回ることとなりました。

4. 修正理由の根拠となる事業セグメント別の内訳

通期連結累計期間の売上高および営業利益（差異）

・事業セグメント別売上高

（単位：百万円）

	前回発表予想	実績値	増減率
電子部品事業	6,300	5,697	△9.6%
環境関連事業	314	311	△1.0%
リアリティプロダクツ事業	385	3	△99.2%

・事業セグメント別営業利益

（単位：百万円）

	前回発表予想	実績値	増減率
電子部品事業	83	50	△39.8%
環境関連事業	△8	△86	-
リアリティプロダクツ事業	△5	△80	-

5. 平成 23 年 3 月期期末配当予想の修正

基準日	年間配当金		
	第 2 四半期末	期 末	年 間
前回予想 (平成 22 年 5 月 18 日発表)	0 円 00 銭	200 円 00 銭	200 円 00 銭
今回修正	—	0 円 00 銭	0 円 00 銭
当期実績	0 円 00 銭	—	—
前期実績(平成 22 年 3 月期)	0 円 00 銭	0 円 00 銭	0 円 00 銭

6. 配当予想の修正の理由

当社は、株主の皆様の利益還元を重要な経営課題と位置付けており、業績や配当性向などを総合的に考慮しながら中長期的に安定した配当の維持を基本方針としております。

しかしながら、上記のとおり平成 23 年 3 月期通期業績が前回予想を大幅に下回る見込みであり、大幅な当期純損失を計上せざるを得ない状況にあることから、財務状況等を総合的に勘案し、平成 23 年 3 月期期末配当は、誠に遺憾ながら無配とさせていただきたく、株主の皆様におかれましては何卒ご理解ご諒承賜りますようお願い申し上げます。

※ 上記の業績の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上